

年次支部ニュース

創刊号



生まれ変わった学員会年次支部協議会

事務局長 (S39卒)
柳田晋次

■ 学員会最大規模組織の誇りと責任

中央大学卒業生の同窓会組織「中央大学学員会」には、海外13支部を含め全国の地域支部、職域・職場や同期の支部など、全体で230の支部があります。

同期の卒業生で組織する年次支部は現在61の各支部がそれぞれ活発な活動を行っています。

「年次支部協議会」は約30年前に学員会職員の方々と先輩年次支部の

方々のお骨折により設立され、学員会の目的に沿って、学員ネットワークの強化・拡充と母校支援等に資するための様々な活動がなされてきました。

平成元年からは、「中央大学に学ぶ外国人留学生と学員の集い」を20年以上に亘り開催して参りました。また近年は卒業生全体が参加する年次支部が誕生し、年次支部は学員会の最大規模の組織となりました。

年次支部協議会の運営は、従来か

らの担当年次支部が中心となって行う方式から、昨年度より新しい体制に変わりました。小田眞一代表幹事の下、若手年次の方々の積極的なご参加も頂き、老・壮・青の各年代の方々の豊富な経験と知識を活用しながら白門の絆を大切に、母校の興隆と発展、学員の親睦に向けて頑張ってお参ります。

どうぞ宜しくご支援ご協力の程お願い申し上げます。

最も若い年次支部長

白連会2013支部長
河上明日美

各年次支部の諸先輩方、はじめまして。

白連会2013支部長を務めております、河上明日美と申します。

本支部は、2013年春の卒業生で結成された、最も新しい年次支部となっております。

6月の承認式で晴れて皆さまの仲間入りをし、身の引き締まる想いと同時に、今後共に活動をさせて頂けることを大変嬉しく思っております。

今回はこの場をお借りし、私の年次支部にかける想いをお話させて頂ければと思います。

私の学生時代は思い返すと、“感



謝”。この一言に尽きるものであったと自負しております。緑豊かなキャンパスで、恩師と呼べる先生方に出会い学びに打ち込めたこと。友人と、クラブ活動に熱心に打ち込み、かけがえない時間を過ごしたこと。多くの人々との出会いにより、4年間で様々な経験、成長を実感することができました。

もちろん楽しい事ばかりでなく、

時に心が折れそうになることもありましたが、気がつけば、いつも支えになってくれたのは周囲の方々でした。

そして、現在支部長として活動する中で出会い、時には相談にも乗って下さる温かい各年次支部の先輩方にも、感謝の念をいつも抱いています。その想いは、この恩をまだ見ぬ後輩への支援として返していければと考えるようになりました。

現在の活動状況は卒業パーティーの開催だけではありませんが、先輩方のお力添えを頂き、今後は在校生、多くの平成の卒業生、先輩方との橋渡し役となる活気ある年次支部になっていければと考えております。

未熟者ではありますが、今後とも末永く宜しくお願い致します。

日ごろより、学員会年次支部協議会の活動にご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございます。

中央大学を卒業しますと、全員自動的に学員(同窓会会員)になり、各年次支部に所属することになります。各年次支部は、昭和20年代後半から最も新しい2013年度まで、おおよそ60以上の支部が活動しています。現在は、各支部がそれぞれ単独で活動している状況です。

学員会年次支部協議会は「年次支部連携のネットワークを構築する」として、活動を行っています。先輩・後輩・学生の年次を越えた連携の構築は非常に重要で、これが構築できれば、これからの中央大学全体の大きな強みになります。

このたび、年次支部協議会の活動や各年次支部の活動を紹介し、楽し

くお互いに参加できるように、機関紙第1号を発刊することになりました。今後誰でも参加できるイベント情報や原稿をお願いしたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

年次支部協議会の活動は次の通りです。

目的は「年次支部、約60支部の連携のネットワークを構築する。」です。

①各年次支部の活動だけでなく、年次を超えて、地域とも交流し、気楽に、楽しくフレンドリーに交流できる場や体制づくりを行う。

②先輩、後輩にこだわらず、学員として相互に協力する体制を構築する。

特に先輩支部は、後輩支部の全面的なバックアップを行う。(例：

知恵や人脈)

③学生が行う、スポーツ、文化活動の応援を行う。

④学校法人中央大学、学生の支援を行う。

現在、次の委員会を中心に活動を行っています。

①学員交流委員会……年次、地域を越え学員同士のフレンドリーな交流を実現していく。

②IT化推進委員会……各支部ホームページの制作支援、学員同士が交流できるイベント情報の提供、年次支部協議会のホームページの立ち上げ・更新。

③学生支援委員会……毎年、就職セミナーを実施し、学生の就職支援に寄与する。

以上、概略を報告させていただきました。

いとおもっております。

よろしくお願いいたします。

委員会の目指すもの

■ 企画運営委員会 ■

世代を繋ぐ年次支部

委員長 (S54卒)
掛水 省三

企画運営委員会委員長の掛水省三です。

皆様方には日頃から年次支部のためにご協力いただきまして、ありがとうございます。

お陰様で年次は学員会の中でも大きな存在となって参りました。大学当局からも頼りにされ、徐々に重視されるようになっております。これはひとえに諸先輩方が長年の功績を積み重ね築き上げて下さった努力のたまものと感謝しております。

また近年は昭和50年以降および平成年代の参加が増え、活発な活動がなされるようになってきました。諸先輩方の念願でありました、年次の活動を永続させ次世代へ繋ぐことが、ようやく現実のものとなりつつあります。

先輩方には経験と知恵があり、若い年次の皆さんにはパワーと行動力があります。これらを結束し、一致協力して益々年次の活動を盛り上げていきたいと願っております。どうぞさらなるご助言とご協力をお願い申し上げます。

最後に、10月27日に多摩校舎で開催予定の第22回中央大学ホームカミングデーでは、年次支部協議会でも青森産のリンゴを販売する予定でしたが、今年度は台風の影響で残念ながら中止になりました。来年は今年分まで「中大の絆」を深めた

■ 学員交流委員会 ■

学員ネットワークの構築を使命に

委員長 (H2卒)
山本 卓

学員交流委員会は昨年、年次支部協議会こそが、その成り立ちから学員全員を受容し、学員全体を網羅し得る唯一無二の組織体である、との意義を踏まえて、学員会本部と連携して学員ネットワークの構築に取り組むことを使命として設立されました。

今年度の主たる取組としては、学員会本部が昨年度に引き続いて事業計画に掲げた重点項目「若年層の学員会離れに対する活性化対策」への支援と協力が挙げられます。

委員会では本部に対して率先して「若年層活性化」に協力したい旨申し出て、結果、当委員会が当該事業推進の主体となって取組むべく共通認識を有するに至り、今般具体的な協議を始めることになりました。

9月中旬には本部との第1回目の協議が実現し、議論の中で「若年層活性化」の鍵を握るテーマとして取り上げられたのが「婚活」でした。

昨年度、「学生支援委員会」が本部の協力も得て「就活セミナー」を主催し、400名に及ぶ現役生が参加するイベントにまで仕上げて好評を博したのは周知のことです。

学生支援のテーマが「就活」である一方で、若年層活性化のテーマに「婚活」を持ち出すのも至極安直と思われる節もありましょうが、委員会としては至って真面目に関連イベントの来年3月開催を企てております。

學員各位の御支援と御協力、そして若年層の學員各位の御参画を期待して、以上当委員会の紹介と致します。

■ IT化推進委員会 ■

ITを通じて交流を

委員長 (H元卒)
小川 学

IT化推進委員会とは、各年次支部の方々が、ご自分が所属している年次以外の支部の方との交流、親睦を図るため、各年次の垣根を越えた學員会同士の繋がりを、IT化を通じて容易に行えるようにするための委員会です。

そのために現在行っている具体的な活動は、以下の3つがあります。

● グループのメーリングリストの整備

現在、各年次支部の支部長及び幹事長のメールアドレスのグルー

プリストを作成しており、所属しているメンバーは誰でもメンバー全員に簡単にお知らせをメール送信することが可能になっています。

● 各年次支部の活動をアピールするホームページ作成のお手伝い

中央大学のホームページには、各年次支部の活動をアピールするためのホームページサイトがありますが、残念ながらまだホームページを未作成の年次支部が多々見られますので、その年次支部に対する支援をさせていただきます。

● 年次支部協議会のホームページ作成

今年、中央大学のホームページ内に年次支部協議会のホームページを作成しました。このサイトには、各年次支部が他支部の方々にお知らせしたいイベントを載せ、さらに各年次支部共通のイベントもしくは現役学生の応援をするイベントのお知らせを載せていく予定です。

これらの活動を通じて、益々の年次支部協議会の発展に貢献して行きたいと思えます。また、皆様のさらなるご協力を賜れば幸いと存じます。今後ともよろしく御願ひ致します。

■ 学生支援委員会 ■

現役生の就職支援

委員長 (2007卒)
間宮 康之

「年次支部協議会・学生支援委員会」の委員長を仰せつかっております間宮と申します。2007年(平成19年)卒業で、社会人7年目となりました。

我々学生支援委員会は、主に現役生のための“就職・進路選択支援イベント”「CHUO(中央)進路相談会」を企画運営しています。毎年秋に多

摩キャンパスにて開催しており、今年で9年目になります。

当初は、就職活動を終えた4年生が中心となり「後輩たち(3年生)のために」と始めたものですが、各代の運営メンバーが卒業した後も、タテ・ヨコのつながりを生かし有志メンバーで開催を続けて参りました。

以来、後ろ楯もない状態でしたが、2年前から「年次支部協議会・学生支援委員会」として皆様にもご支援いただいております。この場を借りて御礼申し上げます。

我々は「どこかの1年次」のみで運営するのではなく、20代を中心に各世代のOB・OGが集まり、現役の学生団体Canvas+(キャンパス)と共に運営を行っております。

進路支援活動は、キャリアセンターや職域支部とも重複する面がありますが、就職は毎年環境が変わるものであり、我々年次支部のタテのつながりを生かし、絶えず新しい価値を生み出す事に意味があると考えております。

また、学生団体Canvas+は、本企画以外にもCHUO卒業パーティーの企画運営を行っており、準会員支部設立準備委員としての意味合いもあります。

学生支援委員会として、進路相談やその後に繋がる活動を支援することは、學員会の方針である「準会員へのサポート・価値還元」ともリンクする非常に重要な意味を持っています。

一方、就職・進路支援イベント本来の問題意識として、母校の就職状況・レベルの向上に寄与したいという思いがあります。この点については、最重要課題と位置づけ、各方面の皆様のご協力を頂きながら、社会に出る中大生がより活躍出来るよう活動をしていく所存です。引き続き、よろしく御願ひ致します。

特別
寄稿

箱根駅伝の90年 テレビ解説者のつぶやき

昭和40年卒
碓井 哲雄
(不滅の6連覇の立役者)

箱根駅伝予選会報告

箱根駅伝は平成26年正月で第90回を迎える。大正9(1920)年に東京高師の金栗四三氏(明治45年ストックホルム五輪出場)が各大学に呼びかけ、早大、明大、慶大、東京高師の4校で第1回がスタートした。

出場校が年々増えてゆき、第30回(昭和29年)より15校になり、第79回(平成13年)より20校(1校は選抜チーム)に増えた。第90回大会は記念大会で、23校の出場となる。

戦前から昭和30年代にかけて中大、日大、早大の3校が優勝を争ってきた。特に第30回(昭和29年)から第41回(昭和40年)まで優勝争いは中大と日大がしのぎを削った。この間中大は6連覇(昭和34年から昭和39年)の偉業を成し遂げた。

昭和40年代から50年代にかけて順大、日体大の体育系の大学が優勝を重ねていったが、新興大学の大東文化大学も優勝した。

平成に入り戦国駅伝となり、ケニアの留学生を補強した新興大学の山梨学院大、神奈川大、駒澤大、亜細亜大、東洋大などが初優勝し、駒澤大、東洋大は優勝を重ねている。直近の89回は日体大の久しぶりの優勝であった。

箱根駅伝がなぜ人気があるかという、歴史的にも長く回を重ねているからだ。一人の走る距離が20km以上(4区のみ18.5km)で、2日間で10人の選手が走ること、正月の2日・3日に行われること、コースが変化に富んでいることもあげられる。往路は大手町スタートで箱根町がゴール。1号線を走り箱根の山を

越え、復路は箱根町から大手町に戻る(10区は日本橋をまわるコース)。そして最大の理由は、第63回(昭和62年)から日本テレビで中継が開始されたことだろう。最近のテレビ視聴率は平均28%から29%である。

テレビがついてから箱根駅伝は大学の経営計画の中に組み入れられ、各大学は本腰を入れ始めた。箱根駅伝出場がその大学の宣伝となり、受験料収入につながるからだ。ある関係者の話では、受験料収入が数億円増えるという。これはビジネスチャンスなのだ。テレビ中継では往復12時間にわたって学校名が連呼されるわけだから、テレビが中継されるようになってから新しい大学が参入してきたのは当然の成り行きである。

有望選手の獲得競争は大変である。スタッフ(コーチ・スカウト・トレーナー・栄養士など)も充実させ、新人選手獲得のため特待生(学費免除、合宿費・強化費・治療費免除など)制度を設け、スポーツ推薦入学の獲得人数枠を広げ、環境・設備(グラウンド・寮など)を整えるなどが必要だ。

中大は他大学からみるとその点が十分遅れている。有望選手を獲得しないと勝てないのは明白だが、そんななかでも選手は優勝という目標を持ち、しっかりトレーニングをしてほしい。大学関係者もOBも、一丸となって応援・支援をし、再び優勝する日を迎えてほしい。その時を楽しみに待っている。

10月19日(土)自衛隊立川駐屯地～国立昭和記念公園で第90回箱根駅伝予選会が開催された。次回箱根駅伝は90回を記念して23大学が出場することになる。

シード大学が10校決定しているので残りの13枠をこの予選会で競うことになり44校521人が出場した。各大学12名で20kmを走り、そのうち上位10名の合計タイムで13校が本大会出場切符を手にする事になる。

87回連続出場、14回の優勝を誇る中央大学も、今回は29年ぶりの予選会からの戦いになった。中大応援団(学校関係者・学员・父母連絡会の方々など)は他を圧倒する人数が参集したが、結果はかろうじて12位。予選会慣れしていない中央は、初めてその熾烈さを味わうことになった。2013年の箱根では、どれだけ走っても記録は残らず、8区の選手は幻の区間賞となった。選手達はこの悔しさの一年、「強い中大の復活と新たな歴史への挑戦」を掲げ、夏合宿では5区より厳しい上り坂だけの過酷な練習にも耐え、数ある栄光を誇る名門が全てをかなぐり捨てて泥臭く走ってきたそうだ。「1位でも、13位でも予選会は終わったので本番目指して頑張ります」と挨拶していた他校の選手がいたが、襷は繋がれたのだから中大も予選会順位に拘わらず、本番では優勝目指して頑張ってもらいたいものだ。



2015卒向け「CHUO (中央大学)進路相談会」 開催

年次支部協議会では、昨年より中大生の就職活動に役立てるための企画「進路相談会」に協力支援することになりました。これまでは、若手社会人や学生の仲間達だけで、1年間準備を重ね、毎年秋に相談会イベントを開催してきましたが、今や学生にとっての最大関心事は就活ということで、年次支部協議会でも学生支援委員会を立ち上げ、これまで就活支援活動に関わってきた2007年卒の間宮委員長や他のスタッフが中心となり、今回の進路相談会が11月16日(土)に多摩校舎に於いて開催されました。

この進路相談会では、年代前半の各企業で活躍している中堅社員層の参加を呼び掛け、OB・OG37名による「はたらくことを考える」をテーマにした個別相談会や、内定者による「公開模擬面接・グループディスカッション」などを実施しました。今回参加して頂いたOB・OGには進路相談会を通して、学生自らが「はたらく」事に対して考える、今の学生自身が足りないものに直視する、目標達成に向けてどのように行動すれば良いかに気付く、そのような機会の提供という趣旨に賛同された方々です。

今年の相談会にも多数の学生が来場し、この後の生協食堂での交流懇親会でも学生、相談者の皆様、各年次支部会員の方々との活発なコミュニケーションが続き、盛会にてお開きになりました。今後も多くの賛同者を得て、学生就活支援がより一層円滑に充実したものになりますよう、皆様のご協力をお願い致します。

白門三七会の実践報告

白門三七会事務局長
慶野 弘子

「すごいですね!」「なかなかできないことをやっていますね!」「頑張っていますね!」白門三七会の会報を毎月各支部にお届けしているからでしょうか。それとも総会にご出席いただいてのご感想なのでしょうか?

他支部の方から私たちにこのような称賛のことばを頂戴いたします。

以前、私はこんなに多くの方々共感してくださるのですから、他支部の方々からの白門三七会支部への活動協力や問い合わせなどお申し出を期待していました。ですが、いまだにそのような積極的なお話しはありませんでした。とても残念です。

中央大学に学ぶ留学生に、先輩として手を差し伸べて、やがて卒業後に日本とそれぞれの国との「友好の懸け橋」になってくれたらこのうえなくうれしいとの思いから始まった白門三七会の「国際交流活動」です。

庭山卓会長が「あなた、1日28円節約できますか?」という質問を100人ぐらいの方にされたら、「それぐらいはできるよ!」というのがほとんど全員の方々のお答えだったそうです。そこで「1日28円ぐらい(年間10,220円)」ならさほどの金額ではなさそうだとということで、「白門卒業40周年記念白門三七会交流総会」で、「記念事業」として発足させました。それが「白門三七会・白門卒業40周年記念“1日28円留学生交流支援募金”」です。

国際センターとタイアップして、毎年2名の留学生を「研究助成留学生」として選考推薦していただき、その研究テーマに対して「研究助成金」を贈呈するほか、「中央大学外国人留学生会」などの留学生に対し

ても「白門三七会の交流イベント」に招待して日本文化を体験してもらい交流を深めることとしております。

私が感激するのは、この事業に昭和37年に卒業した全国の方々からこれまで11年間の長きにわたり毎年300万円前後の「募金」が届いていることです。74歳を過ぎた今、亡くなられた会員の方も多々おられます。自営業の一部の方を除いて皆年金生活者です。それにもかかわらず、毎年毎年11年間も募金が寄せられてきています。もちろん送られてくる金額は1,000円から5万円ぐらいまでとまちまちです。「世のため人のため」に何か役に立ちたいという気持ちは、人間だれしも持ち合わせていると思います。ですが、何をしたらよいのか、自分一人ではなかなか思いつかないのではないのでしょうか。

懇親会だけなら小学校でも中学、高校の同窓・同期会でも行われています。ただそれは出身校への直接の寄与・貢献につながりにくいものです。

日本の人口減少は年々、目に見えて進んでいます。大学の生き残りも、他大学に比べて「突出した特長」がなければ難しい時代に入ったといえます。大学の受験生・入学生の減少を外国人の受験生・入学生を増やすことで補っていく道を選ばねばならない時代になったと私は考えます。

そのためには我々卒業生も、できることは大学とは別に各支部や団体の独自企画として、あるいは大学と協力タイアップした企画として、効果的な具体的活動を展開することが重要だと思います。

「留学生との集い」の行事が終了したことは大変残念です。単なる懇親会とは違って、何か大きな活動を実現することで会員相互の結びつきが深まり、大きな「連携の輪」ができるという効果も期待できますのに。

初体験

もぎたてりんごに感激!!

白門りんごの会
松木茂夫 (S44卒)

「白門りんごの会」(会長松木茂夫白門44会会長)の第一回りんご収穫体験ツアーが盛大に開催された。

2013. 9. 6 (金)～7日(土)(一泊二日)総勢19名の会員が参加し、青森県三戸町梅内りんご組合のりんご畑で、生産者との交流会を兼ねて実施した。

新幹線八戸駅からは三戸町役場が手配した大型バスに揺られ50分程で会場に到着。残暑厳しい暑さの中、竹原義人三戸町長を始め、農林課滝田課長・貝守課長補佐・梅内りんご組合三代目園主船場敏組合長並びに組合員の皆様約40名を超す盛大なお迎えをいただき、参加者は一様にびっくりすると同時に大いに感動した。

白門りんごの会のりんごをバックに全員で記念写真を撮影後、貝守課長補佐の総合司会により交流会兼もぎ取り体験が始まった。

交流会は、竹原町長、船場組合長の歓迎ご挨拶に続き、当会松木会長の挨拶終了後、地元出身で当会藤原副会長の乾杯で佳境に。リンゴ箱の椅子で8人ごとに着席、リンゴ箱のテーブルには生産者組合の奥様方の手作り料理、漬物・せんべい汁・おにぎり・さらには朝採り野菜と肉質の柔らかい地元産田子牛がところ狭しと並べられた。ビールを片手に会員と生産者との和やかなパーベキューはあっという間に終わり、その後、4グループに分かれ生産者からもぎ取りの手解きを受けた。今が旬の赤く染まった大きそうな「サンつがる」を選びながら、中には味見をしながらも各自自由に収穫体験を実感した。

もぎ取りは簡単そうに見えるが、意外とコツが必要であり、みんな悪戦苦闘しながらも10個ほど(約3kg以上)のりんごを収穫した。生産者からはお土産としてニンニク(今年収穫)を頂戴した。わいわい、大はしゃぎで瞬く間に2時間が過ぎ、名残尽きないが生産者のお見送りを受け会場を後にした。

もう一つのイベントである、「さんのへ秋祭り」を見物した後、十和田湖に映る夕日のきれいな「発荷峠」を経由し十和田湖畔にあるホテル十和田荘に向かった。道中バスの中では藤原さん、小畑さんから青森の歴史や三戸町について話をしていたが、特に小畑さんの歴史観については余りにも物知りなので皆さん感嘆していた。

夕食時には生産者からいただいた桃・プラム・りんごジュース・トマトジュースなどくじ引きにより全員がお土産として持ち帰ることができた。白門を「絆」として年代を超えて集まった参加者は和気あいあい。意気投合した楽しい一夜であった。

翌日は国立公園である十和田湖遊覧や奥入瀬渓流を散策、特に阿修羅の滝から30分程溪流沿いをバスガイドの説明を聞きながらの森林浴、マイナスイオンを浴びながらの散策は格別であった。その後、八食センターでビール付特別海鮮丼の昼食をとり、海産物などのお土産をそれぞれが楽しんだ後、三陸復興国立公園、種差海岸を経て、八戸駅から新幹線で帰路に着いた。

今回の「白門りんごの会」収穫体験は地元紙である「デーリー東北」新聞に写真付きで大きく報道された。タイトルは「中央大学OB会「白門」三戸で収穫体験ツアー」「もぎたてりんごに感動」「1人が生産者と交流」の見出しで9/10の朝刊に大き



く掲載された。新聞報道の通り「白門りんごの会」第一回収穫体験&国立公園十和田湖・奥入瀬一泊旅行は大盛会のうちに終了した。

三戸町竹原町長、農林課滝田課長、貝守課長補佐、梅内組合船場組合長はじめ組合員の皆様方の温かいおもてなしに感謝、紙面を借りてお礼申し上げたい。

参加者の皆さんお疲れ様。会員の皆様には11月と12月に美味しいりんごが送られるのでお楽しみに。「白門りんごの会」を絆として中央大学卒業生が年次・地域・職場等を超えてより多くの会員が拡大し、毎年継続していけるよう皆様方のご協力を切にお願い申し上げます。

■「白門りんごの会」とは?

①名称:「白門りんごの会」

「三戸町役場農林課」と生産者「丸末果樹農園園主船場敏」と「白門りんごの会」との共同事業。当会オリジナルりんごオーナー制度。

②会長:松木 茂夫

副会長:藤原 薫・高村 康男・吉永 匡宏(以上白門44会)

③会費:年10,000円(りんご+配送費+消費税込)

④原則毎年継続。途中参加は6月頃迄可能。

⑤秋祭りに合わせ現地での収穫体験、一泊旅行等を計画(第一回目は2013/9/6～9/7実施)

⑥サンふじと黄琳等のりんごが年2回(11月下旬と12/25頃)配送。

希望者は白門44会山岡事務局長まで



TEL 03-5289-7705

(白門44会ホームページ)

白門りんごの会に詳細を掲載)

「中大一族」(ラグビー部) 古豪復活へのろし リーグ戦G2位に躍進

ラグビー部は、昨年の6位から今季は昨年の覇者東海大を破るなど5勝2敗でリーグ戦グループ2位と大躍進。同時に12月8日から行われる全国大学選手権出場を決めました。

今季は、山北主将の下「改革元年」を合言葉に日常生活から見直し、自己管理・一日の生活ルーティーン化を図りました。こうした選手たちが自ら変えようという意識、その実践が身を結んだ結果です。

戦術的には徹底したディフェンスの強化が挙げられます。リーグ戦グループ最少失点それを端的に物語っているでしょう。

指揮陣に新スタッフが加わり、やるべきことが明確に示され、そして何よりも試合を重ねるごとにそのやってきたことに対する結果が出ることで、選手たちがどんどん自信をつけるという好循環が、今季の成績につながったと思われます。

また、関東主要大学で最少部員数ながらも元々能力のある選手たちが多かったところに力のある有力新人の加入もあり、チーム内でいい意味でのレギュラー争いが生まれ、各選手が持つ能力が100%発揮されたのも大きかったといえます。

12月の全国大学選手権は対抗戦グループ・関西リーグ戦強豪校との対戦でしたが、気負うことなく春から取り組んできたことを普段通り実践しました。



今、中大ラグビー部は「中大一族」を旗印に掲げ、指揮陣、スタッフ、選手はもちろん、OB、ファンが一体となって新たな歴史を刻むべく立ち上がっています。まだ古豪復活への道程は始まったばかりですが、着実に変わりつつあるラグビー部を温かく見守り、応援しようではありませんか。

スケート部 リーグ戦初優勝 各種タイトルを独占

11月24日(日)ダイドードリンクアイスアリーナで平成25年度関東大学アイスホッケーリーグ戦ディビジョンIグループA最終戦(対日本大学)が行われました。本学スケート部は大量得点で快勝し、圧倒的な強さで優勝を決めました。

中央大学 11-0 日本大学

リーグ戦の表彰選手はほぼ中大で独占というような活躍ぶりでした。

今、とても元気な 女性応援団長!!

中央大学応援団の二代目女性応援団長、本城亜利架さん(経4)は一見可愛らしい女の子です。ところがお話を良く聞いてみると、多彩な才能を持っていて驚かされます。

現在、21歳。平成3年アメリカ生まれの帰国子女です。お父様のお仕事の関係で幼少のころからニュージーランド、オーストラリアと日本を行き来され、横浜インターナショナルスクールを卒業後、中大に入学されました。

応援団入部のきっかけは日本の伝統文化を学びたい、運動もしたいと



いう理由で応援団に魅力を感じたそうです。ちなみにTOEICの成績は930点、英語も堪能です。

就職もすでに「日立システムズ」に内定し、今後はIT業界で力を発揮したいというマルチな才能を持ちながら、非常に前向きな女性です。

新聞(国内外)、テレビ・ラジオ、雑誌等各マスコミにも大変注目されていて、中央大学のグローバル構想にふさわしい期待できる人材だといえます。

現在は残り僅かな大学生活の集大成ともいえる箱根駅伝応援に向けて、リーダー部、チアリーディング部、プラスコア部の80名の大応援団と共に、日々過酷な練習に励んでいるそうです。勝っても負けても選手と一心同体の気持ちで頑張る団長と応援団に、皆様の温かいご支援をお願い致します。

自分の言葉として歌う喜び 混声合唱団の活動を通じて

文学部3年 名波友里亜

学会会員の皆様、初めまして。私は、中央大学文学部社会学専攻3年の名波友里亜と申します。

私は中央大学音楽研究会混声合唱団というサークルに所属しています。プロの指揮者・ソリスト・オーケストラの方々をお呼びして、主にJ.S.バッハの「口短調ミサ」やヘンデルの「メサイア」、ハイドンの「四季」などクラシック音楽をメインに演奏をしており、少しでも作曲家の意図を再現できるように研鑽を重ね

ております。そして今年の9月は最高峰である「マタイ受難曲」を演奏いたしました。私が初めて演奏会に乗った「メサイア」では満席のホールでお客様からいただいた拍手が非常に嬉しく、一つの演奏会を終えた後のお客様との一体感は格別なものでした。

しかし同時に、歌はただ音を取って声を出せばよいというわけではなく、まず歌詞を読み込み、自分の言葉になるまで繰り返して初めて一つの音楽が出来上がることに気づきました。この過程は根気のいるものですが、くじけそうになったときに来てくださる方々の顔を思い浮かべては「もっと頑張らなきゃ!」と思えます。演奏会に来てくださったお客様が「また聴きたいな」と言ってくださることが、私にとって一番の喜びです。

12月22日(日)には、14時よりオリンパスホール八王子にて、ベートーヴェン作曲の「交響曲第九番ニ短調」(第九)を演奏いたしました。皆様に聴きにきていただき、この上ない幸せを感じています。ご来場ありがとうございました。

❖ 年次支部協議会執行部役員

役職	氏名	卒業年次
代表幹事	小田 眞一	S48
副代表	松木 茂夫	S44
副代表	山城 博光	S45
副代表	掛水 省三	S54
事務局長	柳田 晋次	S39
事務局次長	小竹 正倫	S39
会計幹事	平岩 弘邦	S45
会計監査	鈴木 康二	S42

役職	氏名	卒業年次
顧問	正野 建樹	S43
顧問	室 勝弘	S45
顧問	増田晃次郎	S46
総務部長	佐藤 愛子	S48
IT推進委員長	小川 学	H元
学生支援委員長	間宮 康之	H19
学員交流委員長	山本 卓	H2

❖ 今後の予定

●箱根駅伝往路応援〈白門48会主催：30名による各学員応援団〉

日時：2014年1月2日(木)
11時～13時半

場所：5区＝箱根大平台ヘアピンカーブ

●同 復路応援

日時：2014年1月3日(金)
8時～10時

場所：6区＝箱根大平台ヘアピンカーブ

●藤原歌劇団オペラ公演「オリイ伯爵」のご案内〈白門38会より〉

日時：2014年1月31日(金)
18時30分 開演～
2月2日(日) 15時 開演～

場所：上野・文化会館

料金：S席 15,000円(通常18,000円)
A席 12,500円
B席 10,000円
C席 7,500円

主演：アントニーノ・シラグーザ
(ロッシーニオペラ作品では世界的に高評価のテノール歌手)

申込先：白門38会松本支部長
FAX 042-487-8540

問合せ：年次支部協議会学員交流委員会副委員長
佐藤愛子(白門48会)
携帯 090-4098-7379

●若手会員対象企画〈学員交流委員会主催〉

日時：2014年3月を予定

編集後記

▶歴史ある学員会年次支部協議会はこれまで先輩方々の多大なご尽力により、「学員と留学生の集い」を中心に年次の連携をつないでこられました。時代は流れ、社会背景、学員の意識変化もあり、最近では若い世代の参加者を募るのも困難になりつつあります▶年次支部協議会では東

北大震災を機に新たな方向を探るべく、新制度をスタートさせ様々な委員会を通じて、若手との協力体制を築く活動に転じてきました。少しずつではありますが、中央大学のグローバル構築や絆をより深めて次世代に繋ぐ光が見えつつあります▶年次支部は卒業すれば誰でもが会員資格があり、それに加え現在の女子在学生の比率は3割を超えています。

年次支部では、今後女性の参加も推奨して、より活性化した中央大学となるよう貢献したいと考えています▶年次支部協議会としての広報活動で、各年次支部、学員、学生、地域支部など他支部の情報をお届けし、交流に役立てて頂ければ幸いです。今後共ご協力を宜しくお願い申し上げます。

(総務部長／佐藤愛子・S48卒)

《年次支部ニュース 創刊号》 2014年1月1日発行

発行者／中央大学学員会年次支部協議会
発行人／小田 眞一
編集／年次支部協議会総務部

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学員会事務局気付
TEL 03-3219-6175
印刷所／(株)ディスカバリー